

3 上皮のバリア機能と 食物アレルギー

Epithelial barrier function and food allergy

石川 史

ISHIKAWA Fumi

国立成育医療研究センター生体防御系内科部
アレルギー科

大矢幸弘

OHYA Yukihiro

国立成育医療研究センター生体防御系内科部
アレルギー科医長

Summary

上皮はその特徴的な構造と構成蛋白によるバリア機能を持つ。これまで、皮膚バリア機能障害とアトピー性皮膚炎 (AD) の関係、AD と食物アレルギーとの関連が指摘されていたが、近年、皮膚バリア機能を担う分子や免疫細胞、サイトカインなどの役割が明らかになり AD の病態の中心に皮膚バリア機能障害があることが明らかになると同時に、疫学的にも皮膚のバリア機能障害、AD と食物アレルギーの因果関係が示された。上皮バリア機能の維持、補強や機能回復と経口免疫寛容を期した研究結果から、食物アレルギーを防ぐ道筋が明らかにされつつある。

アトピー性皮膚炎 (atopic dermatitis ; AD)

かゆみと反復性の湿疹病変を特徴とする皮膚の慢性炎症性疾患。現在では病態の中心に表皮のバリア機能障害の存在が考えられている¹⁾。

二重抗原曝露仮説

(dual-allergen-exposure hypothesis)

食物アレルギーの病因について、耐性は食物の経口摂取の結果導かれ、アレルギー感作は経皮曝露により起こると提唱した仮説²⁾。

KEY WORDS

上皮／バリア機能／アトピー性皮膚炎／経皮感作／二重抗原曝露仮説